

## 孤独感や孤立で心臓病や脳卒中のリスクが高まる

社会的なつながりが死亡率に影響することは広く知られているが、心臓血管病に対してどの程度のリスクとなるのかは不明である。そこで本研究では、孤独感や社会的孤立と冠動脈性心疾患や脳卒中の発症との関連について、系統的レビューおよびメタ解析を実施し検討した。

16の電子データベースから、2015年5月までに発表された高所得国における縦断研究を検索し、11件の冠動脈性心疾患に関する研究と8件の脳卒中に関する研究がメタ解析の対象となった。解析の結果、社会的なつながりが希薄であると冠動脈性心疾患リスクが29%高くなり、脳卒中リスクは32%高かった。

したがって、社会的なつながりが希薄であると、冠動脈性心疾患や脳卒中のリスクが高まることが示唆された。孤独感や社会的孤立に対して介入を行うことが、高所得国において死亡や機能障害を引き起こす二大要因である冠動脈性心疾患および脳卒中の予防につながるかについて、さらなる研究が必要である。

出典：Heart (British Cardiac Society).2016; pii: heartjnl-2015-308790